

# 児童・生徒の言語生活に関するアンケート調査の分析

宮城 信<sup>1</sup>・穴田 享巳<sup>2</sup>

## An Analysis of the Use of Language in Children and Students Based on a Questionnaire Survey

Shin MIYAGI, Yukimi ANADA

E-mail: miyagi@edu.u-toyama.ac.jp

### [Abstract]

We conducted a questionnaire survey on linguistic life (reading, writing, learning, relationships with people, interest in the mother tongue, learning foreign languages, etc.) between students from fourth-grade elementary school to third grade of junior high. We analyzed how student consciousness changed according to the development of their year grade.

From the results of this survey, we found that there is a large gap between the fifth and sixth grade students at elementary school. It is thought that this is closely related to interest and attitude towards students' writing.

**キーワード**：言語生活，小学生と中学生，アンケート調査，学年別発達

**Keywords**：use of language, elementary and junior high school students, questionnaire survey, gradual development

### 1. はじめに

本稿に先行する研究として児童・生徒の作文能力の実態調査を行った宮城(2017<sup>3</sup>)がある。この研究の目的は、1992年に小学校～大学で作成・調査された「手」という題の作文と、2016年に同一校において同題同一条件で作成・調査された作文とを対照して、文章作成能力の経年変化を明らかにするというものである。ここでは収集した作文に基づき「手」作文コーパス<sup>4</sup>を構築した。宮城(既出)に収録されている論文では、一貫してこのコーパスを利用して、子ども達の文章作成能力の実態を捉えようと試みて成果を上げている。

これまでの作文能力に関する分析や指摘は、個々の教員の印象や経験による場合が大多数であった。

それらの考察に比べて、確かに作文コーパスを利用した調査からは客観的で真正性が高い結果が得られたと考えられる。一方で産出された作文はある意味で表層的な結果の写しであり、児童らがどのような態度や気持ちで作文したのかに迫るのには自ずと限界がある。そこで本稿では、作文コーパスを利用した調査と異なる方法、即ち児童らを対象としたアンケート調査から彼らの言語生活の実態や意識を汲み取ることを試みる。

### 2. 調査概要

本調査は、調査協力校で2016年に実施した「手」作文を書いた後に、以下のように実施した。

<sup>1</sup> 富山大学人間発達科学部 准教授

<sup>2</sup> 金沢市立伏見台小学校 教諭

<sup>3</sup> 本集は、本研究参加者による、様々な観点からの作文の分析を収録した論文集(研究成果報告書)である。

<sup>4</sup> 作文コーパスとは、収集した手書きの作文を電子化(テキスト化)して構築したものである。さらにその文章データを機械解析して単語に分け、そこに品詞、活用形、読み等の形態論情報を付与した語彙リストも作成した。

調査時期：2016年7月頃

調査協力校：国立大学附属小中学校

調査対象児童：小学校4年生～中学校3年生（該当学年での悉皆調査，各学年3～4クラス）

調査方法：事前に「手」作文を書き，その後空き時間を利用して調査用紙に記入する。

なお，本アンケート調査は作文調査に参加した児童・生徒を対象としたものであるが，調査自体は独立していて，1週間以内実施することとした。そのため作文調査と同時に終わっていない可能性がある。また，時期や調査条件を統制するために「手」作文を書き終えた後の調査としたが，本アンケート調査の内容と「手」作文の内容は直接関係していない（ただし，児童・生徒の中には「手」作文を書いた経験を考慮した可能性はある）。

作文調査は小中学校の協力校全学年での調査であったが，本アンケート調査は小学校4年生～中学校3年生（全6学年）を対象に実施した。その理由は，小学校低学年で調査を行うことには時間的な負担が大きすぎることに對する配慮である。クラス数や調査人数については以下の表1のとおりである（列がクラス番号）。

表1 調査クラス・人数

	1	2	3	4	計
小4	33	33	34		100
小5	28	28	26	28	110
小6	31	32	32	32	127
中1	11	35	35	34	115
中2	27	28	28	29	112
中3	30	30	30	29	119

調査用紙はA4版両面で印刷し，言語生活に関する以下のような質問項目（全12問）を設け，5件法で回答させた（選択肢の項目については，末尾の資料を参照されたい）。

[設問]

- (1) 読書は一日のうちどのくらいしていますか。(授業中や宿題・教科書はのぞく)
- (2) 新聞をふだんのくらい読んでいますか。
- (3) インターネットやテレビのニュースをふだんどの

くらい見ますか。

- (4) 学校図書館や地域の図書館にふだんのくらいいきますか。(本を読んだり，借りたりするために行く場合です)
- (5) 学校であったことについて家の大人の人とふだんのくらい話しますか。
- (6) 学校の授業では，今まで，資料を調べて自分の考えたことを発表したり書いたりしてきましたか。
- (7) 学校の授業では，今まで，運動会や遠足などの生活のできごとを作文に書いたりしてきましたか。
- (8) 国語を勉強することは好きですか。
- (9) 読書をするのは好きですか。
- (10) 人と話をするのは好きですか。
- (11) 文章を書くのは好きですか。
- (12) 外国の言葉を学ぶことに興味はありますか。

特に回答時間は指定しなかったが，ほとんどの児童生徒が5分程度で終了したとの報告があった。調査用紙は末尾の資料に掲載した。なお，回答の選択肢は，5件法で，5がもっとも望ましい結果になるように選択項目を設定した。

なお事前の見通しとして，調査協力校は小学校と中学校が同じ敷地内に隣接しているが，授業環境やクラス編成が大きく異なること，小学校から中学校へ進級するときに進級試験があることなどを勘案して，小学校6年生と中学校1年生を境に大きな意識の変化が見られるのではないかと予測した。

### 3. 結果

アンケート結果を集計して，学年別の平均を求め，以下の表2を得た。

表2 アンケート結果の学年別平均

学年	設問(1)	設問(2)	設問(3)	設問(4)	設問(5)	設問(6)	設問(7)	設問(8)	設問(9)	設問(10)	設問(11)	設問(12)	平均
小4	3.45	3.59	4.43	3.68	4.62	3.71	3.62	4.13	4.53	4.30	3.95	3.73	3.98
小5	3.23	3.82	4.49	3.30	4.59	3.85	2.97	3.91	4.32	4.28	3.69	3.94	3.87
小6	3.13	3.46	4.61	2.91	4.24	3.71	3.19	3.26	3.95	4.01	3.48	3.48	3.62
中1	3.20	3.10	4.61	3.38	4.72	4.12	4.20	3.55	4.15	3.97	3.27	3.69	3.83
中2	2.94	2.88	4.72	3.27	4.24	4.08	3.41	3.34	4.09	3.90	3.23	3.59	3.64
中3	2.29	2.76	4.61	2.79	4.34	4.26	3.15	3.01	3.72	4.21	3.16	3.71	3.50
平均	3.04	3.27	4.58	3.22	4.46	3.96	3.42	3.53	4.13	4.11	3.46	3.69	

#### 4. 分析

##### 4.1 クラスタ分析

表2を基に階層クラスタ分析を行い、以下の図1を得た。

図1のデンドログラム(樹形図)から、学年別平均は小4, 5年生(第1クラスター)と小6~中3年生(第2クラスター)の2つのクラスターに分かれると判断した。事前の見通しでは、小学校中学校

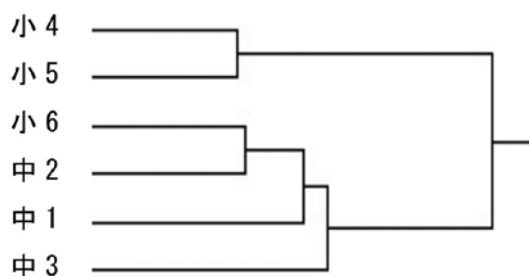


図1 学年別平均のクラスター分析

の校種を境として、学習環境が大きく変化すると考えられるため、その間で言語生活に対する実態・意識が大きく変わってくるのではないかと考えた。しかしながら実際には、小学校5年生と6年生の間で大きな差があり、その後中学校3年生までさほど大きな差はないことが分かった。

##### 4.2 クラスタ毎の各設問の平均値

図1に基づいて2つのクラスターに分け、それぞれの設問毎の平均値を整理して以下の図2に示した。

また、それぞれの設問毎に2つのクラスターを比較して1要因参加者間分散分析(As)を実施した。結果は、以下の4つの設問が有意であった<sup>5</sup>。

(3) インターネットやテレビのニュースをふだんどのくらい見ますか。

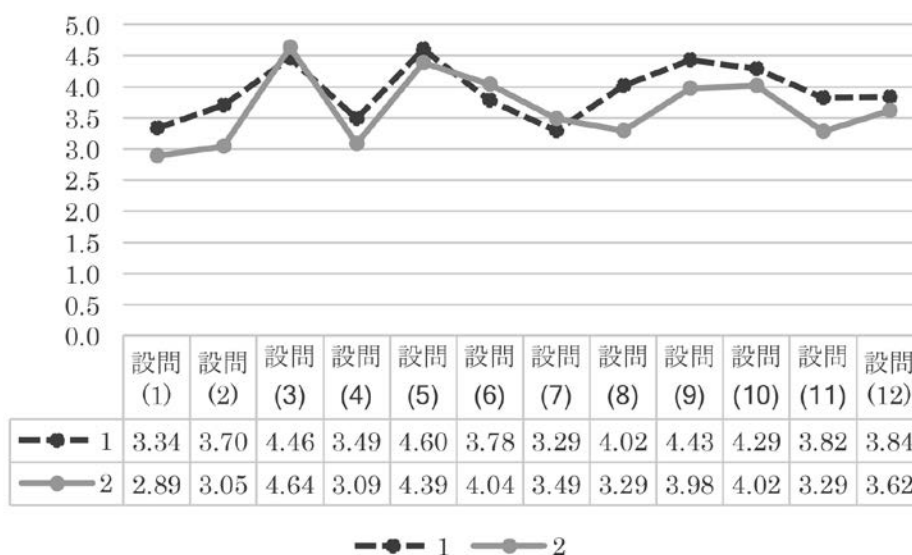


図2 クラスタ毎の設問の平均値

<sup>5</sup> 設問(3):  $F(1, 681) = 16.22, p < .05$ , (8):  $F(1, 681) = 16.10, p < .05$ , (9):  $F(1, 681) = 8.38, p < .05$ , (11):  $F(1, 681) = 17.06, p < .05$

なお設問(2)(10)(12)には有意傾向があった。

- (8) 国語を勉強することは好きですか。  
 (9) 読書をすることは好きですか。  
 (11) 文章を書くことは好きですか。

(〔設問〕再掲)

よって、本稿ではこれらの設問への回答が2つのクラスターを特徴づけていると推定した。この4つの設問の平均値と標準偏差を以下の表3に示した。

表3 各設問の平均値と標準偏差

	設問	(3)	(8)	(9)	(11)
第1クラスター	平均	4.5	4.0	4.4	4.4
	標準偏差	0.04	0.16	0.15	0.15
第2クラスター	平均	4.5	3.3	4.0	4.0
	標準偏差	0.04	0.22	0.19	0.19

#### 4.3 分析結果に基づく実態の考察

設問(3)「インターネットやテレビのニュースを見ますか」は実態を問うており、第2クラスター群の方が高いことが分かった(小4, 5 < 小6 ~ 中3)。この結果は、小4, 5年生くらいの学齢では自分を含め極めて狭い範囲にしか興味・関心を持っていなかったのが、小6年生頃になると自分の周りの人間関係だけでなく、自分の生活を取り巻く社会に対しての興味が高まったことの反映とみることができる。参考までに設問(2)「新聞を読みますか」では有意傾向があり、社会への窓口となるメディアにも難易の差があることが窺える(インターネットやテレビのニュースの方が児童らにとって敷居が低いようである)。

続けて、設問(8)(9)(11)でもクラスター間の差が有意であったが、これらの設問では、第1クラスター群の方が高いことが分かった(小4, 5 > 小6 ~ 中3)。国語や読書、文章を書くことは学齢の進行にしたがって理解が深まる(難易度が下がる)ことが予想されたが、予想と反する結果となった。この点に関しては、今後時機を見て児童らに対してフォローアップインタビューを実施する必要がある。ここでは担任らから得た情報から、一応の見解を示しておく。まず、設問(8)「国語が好きか」への回答に関しては、調査協力校の児童らは、ほとんどの者が中学受験(または同附属中学校への進級試

験)に臨む。したがって高学年になるとそのことが明確に意識されるようになり、国語を楽しみ(だけ)の時間と感じられることに影響するのではないか(例えば、国語での評価がプレッシャーに感じられるようになるのではないか)。おそらくその状況は高校受験、大学受験と継続するから、捉え方が大きく変わることはない。次に、設問(9)「読書をするのが好きか」への回答に関しては、いくつかの可能性を指摘できる。まず1つめ、同校の児童らの読書量は抜きんでて高いことで知られている。この時期は中学受験への意識が高まり、読書から関心が逸れていくのではないかと、2つめは、低学年で好まれて読まれる気軽な物語や伝記などから、現実社会の批判や風刺、社会的な内容の書物に触れる機会が増えて読書傾向が変化してくるのではないかと(設問(3)の結果と連動して考えられる可能性がある)。その結果として、一部の児童らに読書との距離感が生まれるのかも知れない。最後に設問(11)「文章を書くのが好きか」への回答に関しては、現段階では適切な解釈を与えることは難しい。作文コーパスを利用した関連する研究から、児童・生徒が文章作成能力を大きく伸ばす時期は、小2と小3の間、中2と中3の間という結果が得られている。2つのクラスターの境はちょうどこの中間頃の時期であり、文章作成能力の巧拙とは直接的に関係がないように見える。ただし見落としてはならないのは、設問(11)が児童らの文章作成能力を直接的に問うものではなく、印象評価である点である。この設問は本研究の主要な探求課題である児童らの文章作成能力の実態と発達の解明からは測れない心情的な側面の問題であることが興味深い。当然ながら作文指導にとって大きな問題であるので、先の探求課題と併せて今後調査を重ね、実態を明らかにしていきたい。

#### 5. おわりに

本稿の考察と結果を以下にまとめる。

- 言語生活に関する実態・意識は小学校5年生と6年生の間で大きく変化し、その後大きな変化は見られない(2つのクラスターに分かれる)。
- 2つのクラスターを特徴付ける設問は、(3)(8)(9)(11)である。
- 設問(3)から、社会に対する興味・関心の広がりを読み取ることができる。

- ・設問 (8) から、国語への印象と中学受験の関連性が示唆される。
- ・設問 (9) から、読書する本の内容の変化や嗜好について調査の必要性が示唆される。
- ・設問 (11) から、小6以降に、文章を書くことに対しての苦手意識が芽生えるのであるが、技術の問題ではなく、むしろ心情的な問題として捉えることの妥当性が示唆される。

本稿での考察は、アンケート調査の分析とその解釈に留まるが、本調査結果は、同一の児童・生徒の作文資料が紐付けられているので、今後児童らの作文の状況（文章量、語彙の使用状況、文の複雑さ、表現の種類、文章構成）等と関連づけて分析を深めていく予定である。

## 参考文献

- 富士原紀絵・宮城信・松崎史周（2016）「児童生徒作文の基礎的研究—児童生徒作文コーパスの構築と活用—」、『こども学研究紀要』4, pp.9-20, お茶の水女子大学子ども学研究会
- 宮城信（2017）『現場との協働による児童・生徒の作文能力の経年変化に関する研究（ことばのこえⅡ）』（博報財団第11回児童教育実践についての研究助成 研究成果報告書）
- 宮城信・穴田享巳（2017）「3-5 児童・生徒の言語生活に関するアンケート調査の分析」, pp.44-50, 同上
- 宮城信・今田水穂（2015）『『児童・生徒作文コーパス』の設計』『第7回コーパス日本語学ワークショップ予稿集』, pp.223-232, 国立国語研究所 ([https://www.ninjal.ac.jp/event/specialists/project-meeting/files/JCLWorkshop\\_no7\\_papers/JCLWorkshop\\_No.7\\_27.pdf](https://www.ninjal.ac.jp/event/specialists/project-meeting/files/JCLWorkshop_no7_papers/JCLWorkshop_No.7_27.pdf) よりダウンロード可能)

## 謝辞

本研究は、博報財団第11回児童教育実践についての研究助成「現場との協働による児童・生徒の作文能力の経年変化に関する研究」（代表者：宮城信，助成番号：2016053）の助成を受けている。ここに記して感謝申し上げます。

## 追記

本稿は、宮城・穴田（2017）を基に独立した論文として再構成した。内容に関しては、データの表記を改め、考察を加筆した箇所がある。また、本稿の内容の一部は穴田享巳の卒業論文に拠る。

（2018年5月21日受付）

（2018年7月19日受理）

資料  
アンケート用紙

\_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_組 \_\_\_\_\_番                      名前\_\_\_\_\_

質問の答えをそれぞれ1～5から選び数字を丸でかこんでください。

(1) 読書は一日のうちどのくらいしていますか。(授業中や宿題・教科書はのぞく)

- 1 まったくしない
- 2 10分より少ない
- 3 10分から1時間ぐらい
- 4 1時間から2時間ぐらい
- 5 2時間以上

(2) 新聞をふだんどのくらい読んでいますか。

- 1 まったく読まない。
- 2 1年間に数回
- 3 1ヶ月に1, 2回ぐらい
- 4 1週間に2, 3回ぐらい
- 5 ほぼ毎日読んでいる。

(3) インターネットやテレビのニュースをふだんどのくらい見ますか。

- 1 まったく見ない。
- 2 1年間に数回
- 3 1ヶ月に1, 2回ぐらい
- 4 1週間に2, 3回ぐらい
- 5 ほぼ毎日見ている。

(4) 学校図書館や地域の図書館にふだんどのくらいいきますか。(本を読んだり, 借りたりするために行く場合です)

- 1 まったくいかない
- 2 1年間に数回
- 3 1ヶ月に1, 2回ぐらい
- 4 1週間に1, 2回ぐらい
- 5 1週間に3回以上

(5) 学校であったことについて家の大人の人とふだんどのくらい話しますか。

- 1 ほとんどない
- 2 1年間に数回
- 3 1ヶ月に1, 2回ぐらい
- 4 1週間に1, 2回ぐらい
- 5 1週間に3回以上

(6) 学校の授業では, 今まで, 資料を調べて自分の考えたことを発表したり書いたりしてきましたか。

- 1 ほとんどない
- 2 あまりしたことがない
- 3 ときどきしてきた
- 4 かなりしてきた
- 5 よくしている

(7) 学校の授業では、今まで、運動会や遠足などの生活のできごとを作文に書いたりしてきましたか。

- 1 ほとんどしたことがない
- 2 あまりしたことがない
- 3 ときどきしてきた
- 4 かなりしてきた
- 5 よくしている

(8) 国語を勉強することは好きですか。

- 1 好きではない
- 2 あまり好きではない
- 3 どちらでもない
- 4 かなり好きだ
- 5 大好きだ

(9) 読書をすることは好きですか。

- 1 好きではない
- 2 あまり好きではない
- 3 どちらでもない
- 4 かなり好きだ
- 5 大好きだ

(10) 人と話をすることは好きですか。

- 1 好きではない
- 2 あまり好きではない
- 3 どちらでもない
- 4 かなり好きだ
- 5 大好きだ

(11) 文章を書くことは好きですか。

- 1 好きではない
- 2 あまり好きではない
- 3 どちらでもない
- 4 かなり好きだ
- 5 大好きだ

(12) 外国の言葉を学ぶことに興味はありますか。

- 1 ほとんどない
- 2 あまり興味はない
- 3 どちらでもない
- 4 かなり興味がある
- 5 たいへんに興味がある

\* これでおわりです。ありがとうございました。